

クリスチャン 生活と 証しコース



クリスチャン生活と証しコース

はじめに

「クリスチャン生活と証しコース」へ、ようこそ！

このコースは、イエス・キリストをより良く知りたい、他の人々にイエス様を紹介したいと願っているすべてのクリスチャンのために作成されたテキストです。

私たちがイエス様を信じて神様の子どもとされた時、神様は聖霊様によって新しいいのちを与えてくださいました。私たちがこの新しいいのちを握り、それを証しする助けとなるよう、このテキストは準備されています。このコースは、次の 6 つの点でクリスチャン生活と証しを建て上げるため、信仰の堅い土台と实际的で基本的な幾つかの原則をお分かちすることを目的としています。皆さんの上に主の豊かな祝福がありますように。

①歩み

「あなたがたは、このように主キリスト・イエスを受け入れたのですから、彼にあって歩みなさい。」(コロ 2:6)

②証し

「そして、あなたがたのうちにある希望について説明を求める人には、だれにでもいつでも弁明できる用意をしていなさい。」(Ⅰペテ 3:15)

③働き人

「収穫の主に、収穫のために働き手を送ってくださるよう祈りなさい。」(ルカ 10:2)

④フォローアップ

「私たちは、このキリストを宣べ伝え、知恵を尽くして、あらゆる人を戒め、あらゆる人を教えています。それは、すべての人を、キリストにある成人として立たせるためです。」(コロ 1:28)

⑤投資

「多くの証人の前で私から聞いたことを、他の人にも教える力のある忠実な人たちにゆだねなさい。」(Ⅱテモ 2:2)

⑥リバイバル

「わたしの名を呼び求めているわたしの民がみずからへりくだり、祈りをささげ、わたしの顔を慕い求め、その悪い道から立ち返るなら、わたしが親しく天から聞いて、彼らの罪を赦し、彼らの地をいやそう。」(Ⅱ歴代 7:14)

クリスチャン生活と証しコース

Contents ●目次

はじめに.....	1
第1課「神様に用いられるクリスチャン生活」	
1. 神様のみことばを握る	4
2. 神様の御手を握る	4
3. 律法主義か愛か	5
4. 神様の主権に信頼する.....	5
第2課「勝利あるクリスチャン生活」	
1. 試練は人格を建て上げる.....	8
2. 神様の道を歩む.....	8
第3課「クリスチャンの証し」	
1. 心に留めておくべきこと.....	12
2. 傾聴・生活・分かち合い	13
第4課「新しいクリスチャンのフォローアップとケア」	
1. パウロが取った方法と戦略.....	16
2. 新しいクリスチャンに必要なこと	17

※このテキストは、ビリー・グラハム伝道協会発行の「クリスチャンの生活と証しコース」を基に、ディサイプルシップ・ミニストリーにて内容を加筆・修正したものです。

第1課「神様に用いられるクリスチャン生活」

すべてのクリスチャンには、神様に栄光を帰す生活を送り、キリストの大使として生きる責任があります(Ⅰコリ 10:31、Ⅱコリ 5:20)。私たちは神様のために生きたいと願っており、忠実で、役に立つ者でありたいと願っています。では、具体的にどのようにしたらよいのでしょうか。どこから始めたらよいのでしょうか。また、そのために何が必要となるのでしょうか。ともに見ていきましょう。

1. 神様のみことばを握る一何を語ったらよいか(ロマ 10:17)

神様の働きにおいて役に立つ者でありたいと願うなら、私たちの心を神様のみことばで満たしておく必要があります(詩篇 119:9-11)。そうすれば、何を語ったらよいか、聖霊様が私たちに教えてくださいます(ルカ 12:10-11)。また、私たちの生き方をみことばによって変えていただく必要があります。聖書は神の靈感によって書かれ、教えと戒めと矯正と義の訓練とのために有益です。それは、神の人が、すべての良い働きのためにふさわしい十分に整えられた者となるためです(Ⅱテモ 3:16)。

毎日、聖書を読む習慣を身に付けましょう。TLC ではデボーションブックを製作し、教会皆で同じみことばを読んでいくことを奨励しています。毎日みことばが必要です。

2. 神様の御手を握る一語る力(使徒 1:8)

イエス様が内に働いてくださらなければ、効果的な証しをすることはできません。キリストご自身が、私たちの内に語る力と能力を与えてくださいます。

そのためには、日々の生活の中で聖霊様に満たされる必要があります(エペ 5:18)。聖霊様に満たされた生活が、キリスト者としての証しとなるのです。日毎に聖霊様から力をいただきましょう。また、御霊によって歩みましょう(ガラ 5:16)。私たちが御霊によって生きるなら、「愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制」の御霊の実を結ぶ者となるのです(ガラ 5:22-26)。

また、私たちの生活を聖霊様にゆだね、明け渡しましょう。聖霊様は罪について、義について、さばきについて、その誤りを私たちに気づかせてくださいます(ヨハ 16:8)。神様に喜ばれない領域があるなら、そのままにせず、日毎に主の御前で罪を告白し、悔い改めましょう。そのために、イエス様は十字架の上で血を流され、私たちの罪の贖いを完成してくださいました。

私たちの歩みは主によって確かにされます。主が私たちの手をささえておられることを感謝します(詩篇 37:23-24)。

毎日、主の前に時間を取って(定めて)、祈る習慣も身に付けましょう。イエス様が内に働くためには親密な関係が鍵です。それは、祈る時間を取ることでしか築くことのできない関係です。

3. 律法主義か愛か

「神は私たちに、新しい契約に仕える者となる資格を下さいました。文字に仕える者ではなく、御霊に仕える者です。文字は殺し、御霊は生かすからです。」(Ⅱコリ 3:6)

律法主義、すなわち律法の文字によって生きる生活は、教会や家庭における争いと分裂の原因となります。私たちの自己中心的な態度は、人々を私たちから遠ざけ、キリストから引き離してしまいます。愛と恵みに満ちた態度だけが、一致といやし、赦しをもたらします。神様の愛の源は御霊で、すべての信者の内に宿ってくださいます。

人の基本的な必要は、「自己価値の認識」「安全であること」の二つであると言われています。そして、人間関係を妨害する四つの要素は、「命令的」「支配的」「屈辱的」「独善的」であることです。私たちは人々と接する時に、自分が神であるかのように振る舞ってははいけません。また、隣人と価値観や考え方に違いがあつたとしても、重要なことに対しては必要以上にこだわってはいけません。

人間関係における解決方法について、聖書は神様の愛が源であると語っています。私たちに与えられた聖霊様によって、神様の愛が私たちに注がれています(ロマ 5:5)。何よりもまず、互いに熱心に愛し合ひましょう。愛は多くの罪をおおいます(Ⅰペテ 4:8)。私たちは、神様に選ばれた者、聖なる、愛されている者として、深い同情心、慈愛、謙遜、柔和、寛容を身に付けましょう。互いに忍び合い、だれかがほかの人に不満を抱くことがあつても、主が私たちを赦してくださつたように、互いに赦し合ひましょう。愛は結びの帯として完全なものです(コロ 3:12-14)。

4. 神様の主権に信頼する

「なぜなら、万物は御子にあつて造られたからです。天にあるもの、地にあるもの、見えるもの、また見えないもの、王座も主権も支配も権威も、すべて御子によって造られたのです。万物は、御子によって造られ、御子のために造られたのです。」(コロ 1:16)

「確信」という意味の英語「コンフィデンス」には、「完全な信頼」という意味がその語源にあります。また、原語のヘブライ語には「避難する」というニュアンスも含まれています。神様に信頼を置くとは、信仰によって神様を信頼し、私たちの必要を神様が満たしてくださり、私たちを用いてくださると信じることです。私たちが主の御前で降参し、自身の主権を放棄し、神様の主権を認めて主のもとへ避難する時、それは神様に完全な信頼を寄せていることとなります。神様は私たちの人生のあらゆる領域に関わりたいと願っておられます。主は私たちが不十分であることを承知の上で、良い関係を築いて用いたいのです。飢え渴いてイエス様を心の王座にお迎えしましょう。

日毎に「イエス様が私の主です！」と告白しましょう。私たちの歩みを主にゆだね、主に信頼するなら、主がその歩みを成し遂げてくださり、完成へと導いてくださいます(詩篇 37:5)。

クリスチャン生活と証しコース

◆考えてみよう！

1. あなたにとって、神様はどのようなお方ですか。また、あなたは神様に対してどのような責任を与えられていますか。

2. 以下の聖句を読んで、神様があなたにどのような分野で信頼することを勧めておられるか考えてみましょう。

出エ 4:10-12、士師 6:15-16、エレ 1:6-9、イザ 41:10、I コリ 1:26-19、ピリ 4:13

3. 使徒 8:26-38 を読んで、以下の質問を考えてみましょう。

(1)どのようにしたら、もっと神様の力を体験できるでしょうか。

(2)聖霊様によって歩む(聖霊様に満たされ続ける)秘訣は何でしょうか。

(3)聖霊様に満たされる(聖霊様に支配される)ことは、なぜ重要なのでしょうか。

4. I コリント 13:4-7 を読んで、聖句の中の愛の特質を書き出してみましょう。

5. どのようにすれば、他の人にもっと愛を示すことができるか書き出してみましょう。

第2課「勝利あるクリスチャン生活」

神様は私たちの人生に良い計画と目的を持っておられます。神様の道に従って歩むなら、私たちは豊かな人生を楽しむことができます。しかし、それは私たちが決して困難や逆境に会わないという意味ではありません。イエス様は弟子たちに「世にあっては患難があります」と言われました(ヨハ 16:33)。

「困難(試練)」と「私たちの罪の性質」によって、神様の計画から目をそらしてしまうのではなく、勝利あるクリスチャン生活を歩み続けるために、私たちの内側に二つの性質があることを認めましょう。私たちはイエス様にあって新しい者へ再創造されましたが、私たちの古い性質は、神様が願っておられる歩みと反対の方向に進ませようとしています。

神様の道を歩むことは、自然にできるものではありません。毎日、「イエスは主！」と宣言し、主への献身と明け渡しが必要です。日毎に主の御前に立ち返り、祈りとみことばにより、神様の導きを求めていきましょう。

1. 試練は人格を建て上げる(ヤコ 1:2-4)

すべてのクリスチャンは、しばしば試練を体験します。パウロは身体的な弱さを持っていました(Ⅱコリ 12:7-10)。その上、むち打ち、投獄、難船、盗賊の難など、様々な危険に会いました(Ⅱコリ 11:23-27)。ヨブは、家族とすべての財産を失い、頭の先から足の裏までのひどい腫れ物に苦しみました。

多くの場合、試練は私たちの人生の一部であり、クリスチャンとしての成長を助けるものです。それらは私たちの人生から不純物を取り除き、信仰を深め、育てるものです。試練を通して、私たちはキリストに似た者へと成長していくのです。

試練はより良い品性を生み出し、主に用いていただきやすくなるための「踏み石(ステップ)」となります。しかし、間違った見方をしてしまうと、試練は私たちを意気消沈させ、落ち込ませ、私たちを磨く代わりに苦々しい思いを抱かせ、「踏み石」ではなく「つまずきの石」となってしまいます。練られた品性は希望を生み出します。そして、その希望は失望に終わることがありません(ロマ 5:3-5)。試練の中でも、希望を失うことなく、主に信頼し、明け渡していきましょう。

2. 神様の道を歩む(箴言 3:5-6)

私たちがイエス様を人生の主としてお迎えする時、神様のすべての約束は、私たちにも適用されることになります。神様が導かれるように生きるなら、これらの約束を私たちの生活の中で体験するのです。私たちは常に完全な生き方ができるわけではありません。しかし、神様は私たちの弱さをよくご存知なので、私たちが神様の道に歩むことができるよう、また、つまずいた時には立ち直れるように助けてくださいます。

(1) 神様の約束＝満たしと喜び（詩篇 16:11、107:9、イザ 26:3）

聖書は神様の道に従って歩む者に与えられる約束で満ちています。神様の道を歩むことを通して、勝利と豊かな実りが与えられます（ガラ 5:16、22-23）。また、罪からの聖めと神様との交わりが回復されます（Iヨハ 1:7-9）。そして、イエス様との友情と愛が深められます（ヨハ 14:21）。そのように思えない時にも、約束を信頼することが本当に大切なことです。

(2) 私たちの問題＝罪深い、自己中心的な欲望

「人の心は何よりも陰険で、それは直らない」（エレミヤ 17:9）とあるように、私たちには罪深く、自己中心的な性質があります。私たちが逆境や罪によって神様の道からそれる時、欲求不満、罪悪感、不幸、そして敗北を経験します。これらの問題を適切に処理しなければ、私たちは神様から遠く引き離されてしまいます（ロマ 7:18、マコ 7:21-23、ヤコ 1:13-15）。問題の責任は神様にではなく、私たちの側にあるのです。

(3) 神様の備え＝赦しと回復

神様は横道にそれた私たちを神様の道に戻し、イエス様との交わりを回復することができますようにしてくださいました。イエス様の十字架による贖いの恵みに感謝し、①告白する（Iヨハ 1:9）、②罪を捨てる（箴言 28:13）、③神様の赦しを受け入れる（詩篇 32:5）、④これらを繰り返し実行する（ガラ 5:25）という4つのステップを日々の歩みの中で実践していきましょう。

(4) 私たちの実践＝従順と明け渡し（ロマ 12:1-2）

神様の愛と赦しによって、私たちは神様の道に回復されています。イエス様は私たちが神様の道に留まり続けるための良い模範です。イエス様も逆境のプレッシャーや罪の誘惑に直面されました。しかし、イエス様はサタンとの対決において、完全に勝利されたのです。その秘訣は何でしょうか。それは、イエス様は聖霊様に満たされて力を受けておられ、みことばによって完全武装をし、ご自身への父なる神様からの愛の关系到留まり続け、また、その良いご計画の成就に思いを留めておられたからです。

神様の道に留まり続けるために必要なことは、「父なる神様が必ず助けて導いてくださるのだから、よろしくお願いします！」と明け渡すこと、ゆだねることです。そして、そこに留まろうとする「意志」です。また、神様の道を選択し、神様の道を歩もうと日毎に決断することです。イエス様が私たちの人生の中心におられるなら、主は私たちを導き、私たちは知恵、力、平安、喜びに満たされます。

私たちには優先すべきことがあります。それは、まずイエス様であり、礼拝、祈りとみことば、そして宣教の働き（証し）です。私たちの優先順位が並び替えられる時、私たちはこれらすべてのことの中であって、圧倒的な勝利者となるのです（ロマ 8:37）。

クリスチャン生活と証しコース

◆考えてみよう！

1. 試練は私たちの成長にどのように役立つでしょうか。

2. 「神様の道を歩むことによる報い」について、幾つか書き出してみましょう。

3. どのような自己中心的な願望や罪が、私たちを神様から引き離そうとするでしょうか。また、どうすれば神様の道に立ち返ることができるでしょうか。

4. ルカ 4:1-14 を読んで、神様の道を歩み続けるにはどうしたらよいかを確認しましょう。

5. 私たちの生活において優先すべき事項（イエス様、礼拝、祈り、みことば、証し）について、どの分野が最も弱い部分であることを教えられましたか。それを強める実際的な方法を挙げてみてください。

6. ルカ 6:46、ヨハネ 14:21 から、イエス様が私たちの主であり、私たちが主を愛していることを、どのようにして示すことができるか考えてみましょう。

第3課「クリスチャンの証し」

ここまでの学びでは、神様との個人的な親しい歩みを強調してきました。私たちは神様の力と主権を信じます。自分の弱さや不十分さを超えて、神様は私たちを用いることがおできになります。聖霊様が私たちを導いて勇気を与え、私たちの働きを助け、私たちが証しをする人々の人生に、効果的に働きかけてくださいます。「神のことばは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましいと霊、関節と骨髄の分かれ目さえも刺し通し、心のいろいろな考えやはかりごとを判別することができます。(ヘブ 4:12)」福音は、信じるすべての人にとって、救いを得させる神の力です(ロマ 1:16)。

これらのことに「アーメン！」と応答できるなら、私たちはイエス様を証しする準備ができています。神様は「福音の良い知らせ」を伝えるために私たちを用いてくださいます。

1. 心に留めておくべきこと

(1) 神様の愛を強調する

すべての人は罪人であり、罪からの聖めと赦しを必要としていると認めなければなりません。神様の裁きよりも先に、神様の愛を伝えることが大切です。

(2) 私たちを通してイエス様を現わす

私たちは、私たちの内におられるイエス様を証します。証しのために特別な学びが必要なわけではありません。相手の反応や主の導きに敏感に反応し、聖書を賢く用いましょう。私たちの拙いことばを通して、イエス様が生きて働いてくださいます。

(3) できるだけ単純に語る

「福音」を証明しようと思ったり、知的な議論で人々を感心させようと考えたりするのはやめましょう。パウロも福音の単純さに留まったので、神様は彼のことばを大いに祝福されました(Ⅰコリ 2:1-2)。聖書のみことばと一緒に学ぶような姿勢が大切です。

(4) 私たち自身の生活が、証しの重要な部分

神様はみこころのままに、私たちの内に働いてくださいます(ピリ 2:13)。完全な人になる必要はありませんが、私たちの人生は、イエス様を反映するものでなければなりません。日毎に主の御前に進み出て、主からの聖めをいただきましょう。

(5) 人々の話に誠実に耳を傾ける

すべての人が友を必要としています。イエス様は「罪人の友」と呼ばれました。どのような背景を持つ人も、イエス様が心から自分たちのことを気にかけてくださっていることに気づいていました。私たちはみな「友情」という架け橋をかけることができ、それがキ

リストにある「良い知らせ」を分かち合う、自然な機会へとつながります。相手の話に誠実に耳を傾けることは、私たちに対する信頼感を増すこととなり、その人はやがて心を開いて、私たちの証しに耳を傾けてくれることでしょう。

2. 傾聴・生活・分かち合い

多くのクリスチャンにとって、イエス様の福音を誰かに分かち合うことは、少し気おくれがしてしまうことです。ある調査によると、「自分には伝道の賜物がある」と明言するクリスチャンは、全体のたったの 1 パーセントに過ぎないそうです。しかし、すべてのクリスチャンにとって、その生涯における使命は、神様がその人のそばに置かれた人々へイエス様のことを宣べ伝えることです。すべての信徒たちは、イエス様を宣べ伝える使節として任命されています。語るべきことばは聖霊様が教えてくださいます。聖霊様にゆだね、明け渡していきましょう。

(1) イエス様のメッセージを伝えるために扉が開かれるように祈る

「主よ、扉を開いてください」「主よ、彼らの心を開いてください」「主よ、私の口を開いてください」と、毎日祈りましょう。

(2) 友の話に耳を傾け、霊によって問題を見極める

多くの人々は自分がキリストや罪の赦しを必要としていることを知りません。彼らは夫婦関係の修復、孤独からの解放、人生に意味を見い出すことが、問題の解決だと考えます。しかし、これらの問題は、神様との関係の喪失から派生したものです。友として話を聞き、彼らの必要と問題が何であるかを見極め、それに対してイエス様は何がおできになるだろうかと、分かち合う方法を考えましょう。

(3) イエス様と福音の橋渡しをする

神様は私たちを、神様ご自身と交流する者として創造されました。アダムが神様に逆らい、世界に罪が入り込んだことにより、人は神様が本来備えてくださっていた神様との関係を知らずに生まれてくるようになりました。それゆえ、私たちの人生にあらゆる問題が生じてくるのです。私たちは彼らにイエス様という解決策を提示しましょう。

(4) メッセージを分かち合う

イエス様のメッセージを友人に分かち合う時、次の 3 つの話を用いると良いでしょう。

- ①相手の話:相手の話をよく聞き、その人の必要に通じる開かれた扉を用いる
- ②私たちの話:イエス様が私たちの人生にどう解決を与えたかを証しする
- ③神様の話:十字架を通してイエス様が何をしてくださったかを証しする。神様のみわざが私たちの人生をどう変えたか、その人の人生も変えられるかを説明する

クリスチャン生活と証しコース

◆私たちの信仰の証しのアウトライン

1. キリストを知る前の生活はどのようなものでしたか。

2. どのようにイエス様を受け入れましたか。

・イエス様についてどのように聞きましたか。

・イエス様について何を聞きましたか。

・イエス様にどのように答えましたか。

3. イエス様を受け入れた後の生活はどう変わりましたか(どんな解決を与えられたか)。苦しい時や孤独な時、伴侶、親、友人としてイエス様はどんな解決策を与えてくださいますか。

クリスチャン生活と証しコース

◆考えてみよう！

1. 福音とは何でしょうか。福音にはどのような力がありますか。(I コリ 15:1-4、ロマ 1:16)

2. 私たちの根本にある霊的な問題は何ですか。どうして救いが必要なのでしょう。(ロマ 3:23、6:23)

3. 私たちの問題に対する解決方法は何ですか。イエス様は罪人のために何をされましたか。(ロマ 5:8、エペ 2:8-9)

4. 私たちはどのように応答するべきですか。人はどのようにして神様の子どもになれるのでしょうか。(使徒 3:19、ヨハ 1:12)

5. 「新しく生まれる」とはどういうことですか。(ヨハ 3:16)

6. サマリヤの女とニコデモへの伝道で、イエス様はそれぞれに違った対応を取られました。どのような違いがありましたか。(ヨハ 3:1-8、4:1-15)

第4課「新しいクリスチャンのフォローアップとケア」

「イエスは主」と信じ受け入れる決心は、ほんの始まりに過ぎません。決心した人々が霊的に成長し、神様に用いられる人になるかどうかは、その人々のために捧げられる祈りや、霊的なケアが継続してなされていくかにかかっています。新約聖書の多くの部分は、使徒パウロが若い信者たちを気遣って書いた手紙でした。それらは本当の意味で、教会と個人の霊的成長を励ます「フォローアップ」の手紙だったのです。

フォローアップとは、新しいクリスチャンを地域教会に定着させ、キリストにあるその人の可能性が最善に生かされるよう配慮し、その教会を建て上げる助け手となるまで続けて、彼らの世話(ケア)をすることです。パウロは霊的な幼子に対する小児科医として、精力的に模範を示した人だと言えるでしょう。パウロが取った方法と戦略から学びましょう。また、新しいクリスチャンの必要について学びましょう。

1. パウロが取った方法と戦略（コロ 1:28）

(1) パウロは自身を惜しみなく捧げた（Ⅰテサ 2:6-8）

フォローアップには、感情的、また経済的な負担がかかり、時間を捧げる必要もあります。フォローアップ(ケア)の妨げとなるのは、多くの場合、他の人と関わることを煩わしく思うことや、払うべき犠牲を惜しむ心です。パウロは遠い地に何度も足を運ぶほどに犠牲を払って仕えました。人々が救われ、彼らの信仰が成長する姿を見るためです。

(2) パウロは熱心に祈った（Ⅰテサ 3:10）

彼の祈りは真剣で熱心な者でした。パウロは自分が信じたばかりの人々のために祈っていることを、幾度も手紙に書いて伝えています。

(3) パウロは協力者を派遣した（Ⅰテサ 3:2）

パウロは新しく信仰に入った人々を励ますために、訓練を受けた他の人と一緒に行動して仕え、また、時には自分の代わりに遣わしました。

(4) パウロは手紙を書いた（Ⅱコリ 2:9）

パウロ書簡は、すべてフォローアップの手紙でした。寄せられた疑問に答え、励まし、教え、そして間違いを正したのです。その場しのぎの対応ではなく、時間をかけて明確になるように仕えたのです。

(5) パウロは戻って来た（使徒 15:36）

テサロニケの人たちに手紙を書いた時、パウロは自分がもう一度、彼らを訪問する機会が与えられるように祈ってほしいと頼みました。宣教旅行中、福音をまだ聞いたこと

のない人々に宣教しただけでなく、新しいクリスチャンたちを教え励ました。パウロの第一の関心は、新しく信仰をもった人々の霊的な成長であり、彼らが成熟し、キリストの弟子となることでした。

2. 新しいクリスチャンに必要なこと

新しいクリスチャンにはケアが必要です。誰かがそのケアをしなければなりません。多くの場合、最もふさわしい人は、その人のために祈り、友となり、教会に誘って、イエス様のもとへ導いた人です。これは霊的な養子縁組とも呼ばれます。霊的な養親はその人を助け、相談に乗り、励まし、共に聖書を学び、祈り、定期的に礼拝に出席できるようサポートし、時に指導する必要があります。

(1) 養い（Ⅰペテ 2:2）

生まれたばかりの赤ちゃんが、成長のために乳を必要としているように、イエス様によって新しく造られたばかりのクリスチャンが成長するためには、みことばによって養われる必要があります。彼らがみことばを食物として歩んでいくことができるよう、励ましていきましょう。ライフグループや主にある兄弟姉妹との交わりの機会を用いて、共に聖書を開き、祈り支え合い、互いの存在に感謝する神の家族として成長していきましょう。

(2) 守り（Ⅰペテ 5:8）

サタンは私たちをイエス様の愛から引き離そうと機会を狙っています。特に、新しいクリスチャンは攻撃を受けやすいのです。子どもが敵から狙われる時、子どもを守るのは親の役割です。私たちは霊的な親として、彼らが試練や誘惑などによって、イエス様の愛から引き離されないよう、日頃から気を配り、敵から守りましょう。そして、彼らの信仰生活が守られるよう、執り成しの祈りによって支えていきましょう。どんなものであっても、私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から、私たちを引き離すことはできません（ロマ 8:38-39）。

(3) 訓練（コロ 2:6-7）

彼らが成熟したクリスチャンへと成長するためには、訓練が必要です。イスラエルの民も、神の民として自律するために、荒野で 40 年間主からの訓練を受けました。十二弟子も、イエス様によって約 3 年半の訓練を受けました。彼らがイエス様の主権を認め、祈りとみことばを土台とした生活を築いていくことができるように、また、御霊によって歩む者へ成長していくように教え、励ましていきましょう。「私が植えて、アポロが水を注ぎました。しかし、成長させたのは神です。（Ⅰコリ 3:6）」私たちの役割は、彼らを主のもとへ導くことです。そのために、私たちにできることをさせていただき、成長させてくださる主にゆだねていきましょう。

クリスチャン生活と証しコース

◆考えてみよう！

1. 使徒パウロは、テサロニケで非常に効果的な働きをしました。Ⅰテサロニケ 1:2-10を読み、どのようなことが起こったのか要約してみましょう。

2. Ⅰテサロニケ 2:7-8 によれば、使徒パウロがフォローアップに成功した秘訣は何でしょうか。

3. あなたにとってのフォローアップの定義を、あなた自身のことばで書いてください。

4. マルコ 4:1-20 によれば、フォローアップはなぜ大切なのでしょうか。

5. 新しいクリスチャンへのケアという大切な働きのために役立つ原則は何でしょうか。
(マコ 3:14、マタ 28:19-20、Ⅱテモ 2:2 を参照)

6. この学びを通して、具体的に実施できることを 2、3 書き出してみましょう。



表紙のデザインは、エルサレム旧市街にあるクライストチャーチのステンドグラスを参考にしています。
イスラエルを通して全世界を祝福するという神様が与えた契約を、オリーブの木の根と幹、栽培種の枝であるユダヤ人(メノラー)で表し、イエス・キリストによってそこに接ぎ木された野生種の異邦人クリスチャン(十字架)を表しています。
イエス・キリストが再びこの地に戻って来られるとき、イスラエルと異邦人の救いは完成し、すべてのものはキリストにあって一つとされます。
(聖書参照箇所：創世 12:1-3、ロマ 11:11-24、エペ 2:11-22 他)